

送辞

記録的な大雪に見舞われた冬も去り、春の息吹をあちらこちらで感じられる季節となりました。卒業生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。今日のこの良き日を、在校生一同心よりお祝い申し上げます。

私達在校生は、みなさんとこの大社高校で出会えたこと、一緒に過ごせたことをとてもうれしく思っています。みなさんとの何気ない日々が、今となって思えばかけがえのないもので、あっという間に過ぎてしまったように感じています。

みなさんは、いつも私たちのよき先輩で、頼れるリーダーでした。私はみなさんから、「本気で物事に打ち込む姿は仲間を動かし、チームを強くする」ということを教わりました。鹿城祭で、皆さんが丸となり学園祭を成功させようとする姿は、とても輝いていました。中でも体育祭での熱いシーン——各分団のキャラクターを生かした応援合戦、最後まで勝負の行方が分からなかったリレーなど、感動するものばかりでした。閉会式での結果発表を聞き、泣いたり笑ったりして喜んでおられる姿を今でもよく覚えています。

部活動でも、みなさんは活躍されました。全国大会、中国大会に出場した部活動も多く、「文武両道の社高」を示してくださいました。三年間の集大成となる今年、皆さんの胸にはそれぞれの想いや目標があったことと思います。結果を残すために、毎日努力される姿は、そばで見ているととてもかっこ良かったです。部活動は、一つのチームです。たとえそれが個人競技だとしても、皆さんの周りには必ず仲間がいて、時にぶつかりあい、時に喜び合い、ともに切磋琢磨されたと思います。私達に見せてくださった活躍の陰には、悔しくて涙を流されたこともあったはずです。その涙はきっと本気でぶつかった人にしか流せない涙でしょう。私は陸上部なのですが、さまざまな思いで涙を流す先輩を見て、自分もこれくらい本気で取り組まなければいけないなと強く思いました。

また、私たちが自分に自信がなくなり不安になった時は、先輩の言葉が支えになりました。部活動のこと、勉強や進路のことについて、親身にアドバイスや励ましをもらい、勇気をもらった人もたくさんいます。本当にありがとうございました。

卒業を迎えた今、皆さんの胸の中にはそれぞれの想いがあると思います。今までよりもさらに大きな夢や目標を持ち、前に進んでゆかれることでしょう。そしてきっと、大社高校での経験が、みなさんの背中を押してくれる日が来ると思います。大社高校を、そしてともに過ごした「チーム大社」を忘れないでください。私達は、皆さんの「本気 - 1 - の姿」を受け継ぎ、よりよい大社高校を創っていきます。今までより少し距離は遠くなりますが、見守っててください。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康とご活躍をお祈りして送辞といたします。

平成二十九年三月三日 在校生代表 森本優生